

時代		埋立地・盛土			地層・土質・地質記号		
第四紀	完新世	沖積層	粘土	AC	粘土・砂・礫	A	
	更新世		砂	AS			
更新世			砂礫	Ag			
第三紀	鮮新世	立川・武蔵野・下末吉・多摩口一ム層	口一ム・凝灰質粘土			Lm	
		立川礫層	砂礫			Tcg	
		相模層群	粘土・砂・礫			Sa	
		上総層群	泥岩・砂岩・礫岩			Ka	

図2-4 (3) 地質断面図 (WE17断面)

資料：「土地分類基本調査（垂直調査）」
 (国土交通省国土政策局国土情報課 令和2年5月参照)

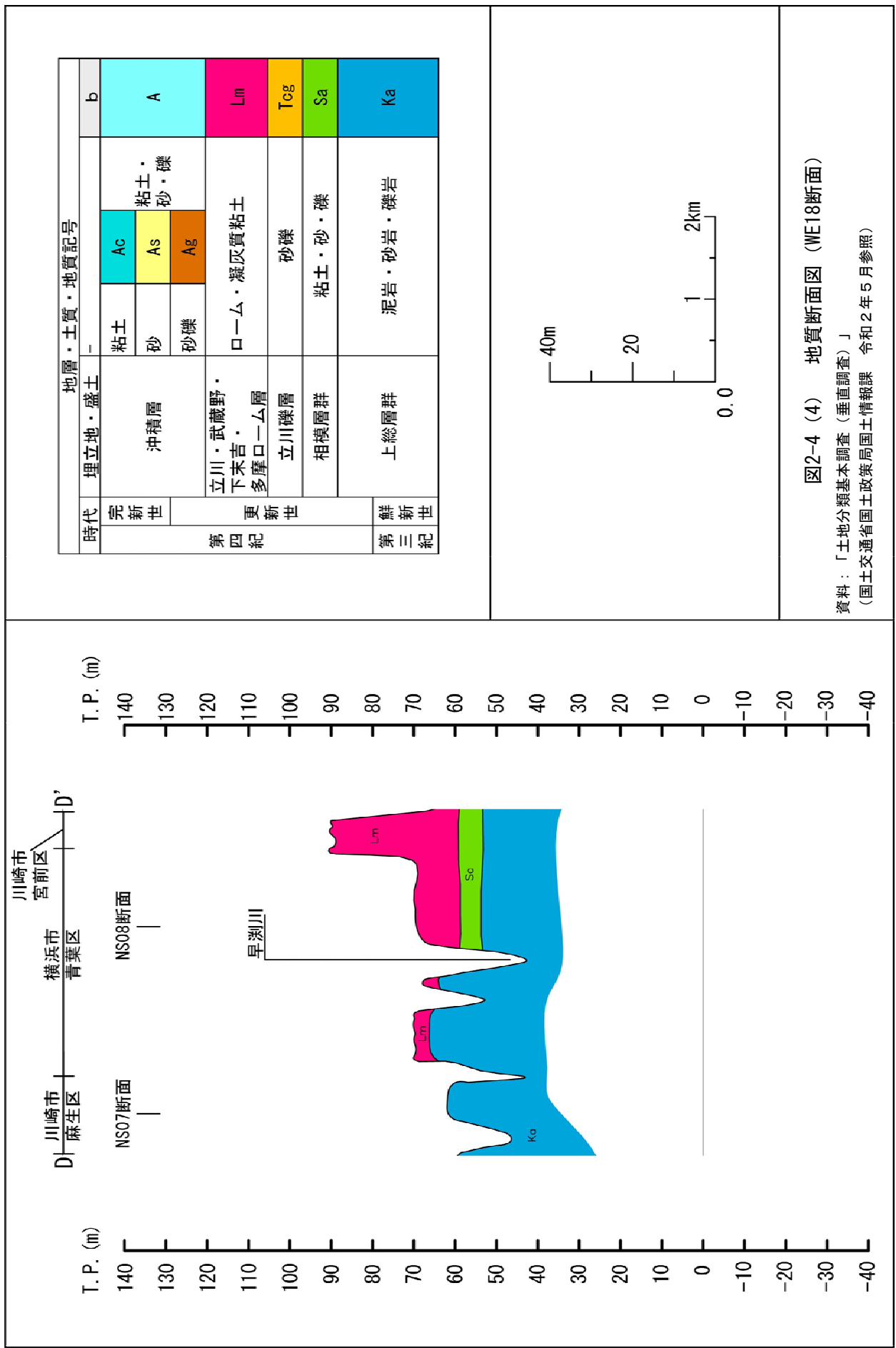
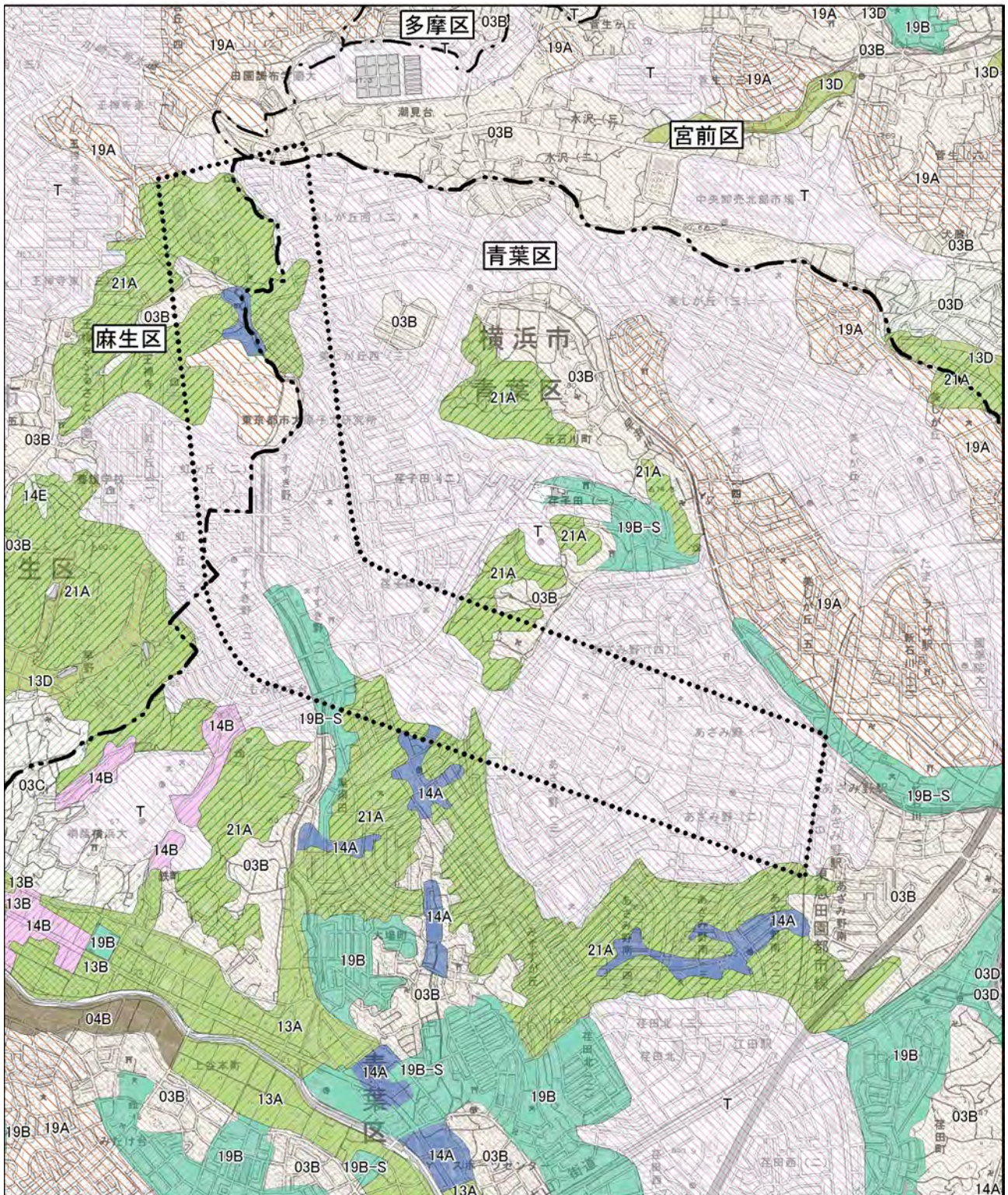


図2-4 (4) 地質断面図 (WE18断面)

資料：「土地分類基本調査（垂直調査）」
 (国土交通省国土政策局国土情報課 令和2年5月参照)



凡例

- 事業計画区域
- 市境
- 区境

- | | |
|------------------|---------------|
| 林業土壌 黒ボク土 | クライ土 |
| 21A 黒ボク土 | 14A 細粒強グライ土 |
| 農業土壌 黒ボク土 | 14B 中粗粒強グライ土 |
| 03B 厚層腐植質黒ボク土 | 14E 中粗粒グライ土 |
| 03C 表層多腐植質黒ボク土 | 人工改変低地土 |
| 03D 表層腐植質黒ボク土 | 19B 人工改変低地土 |
| 04B 厚層腐植質多湿黒ボク土 | 19B-S 人工改変台地土 |
| 灰色低地土 | 19A 人工改変台地土 |
| 13A 細粒灰色低地土・灰色系 | 大規模造成地 |
| 13B 中粗粒灰色低地土・灰色系 | 大規模造成地 |
| 13D 細粒灰色低地土・灰褐色 | |

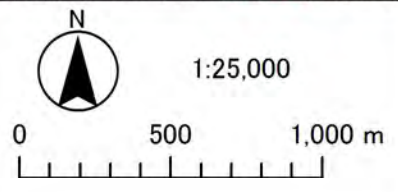
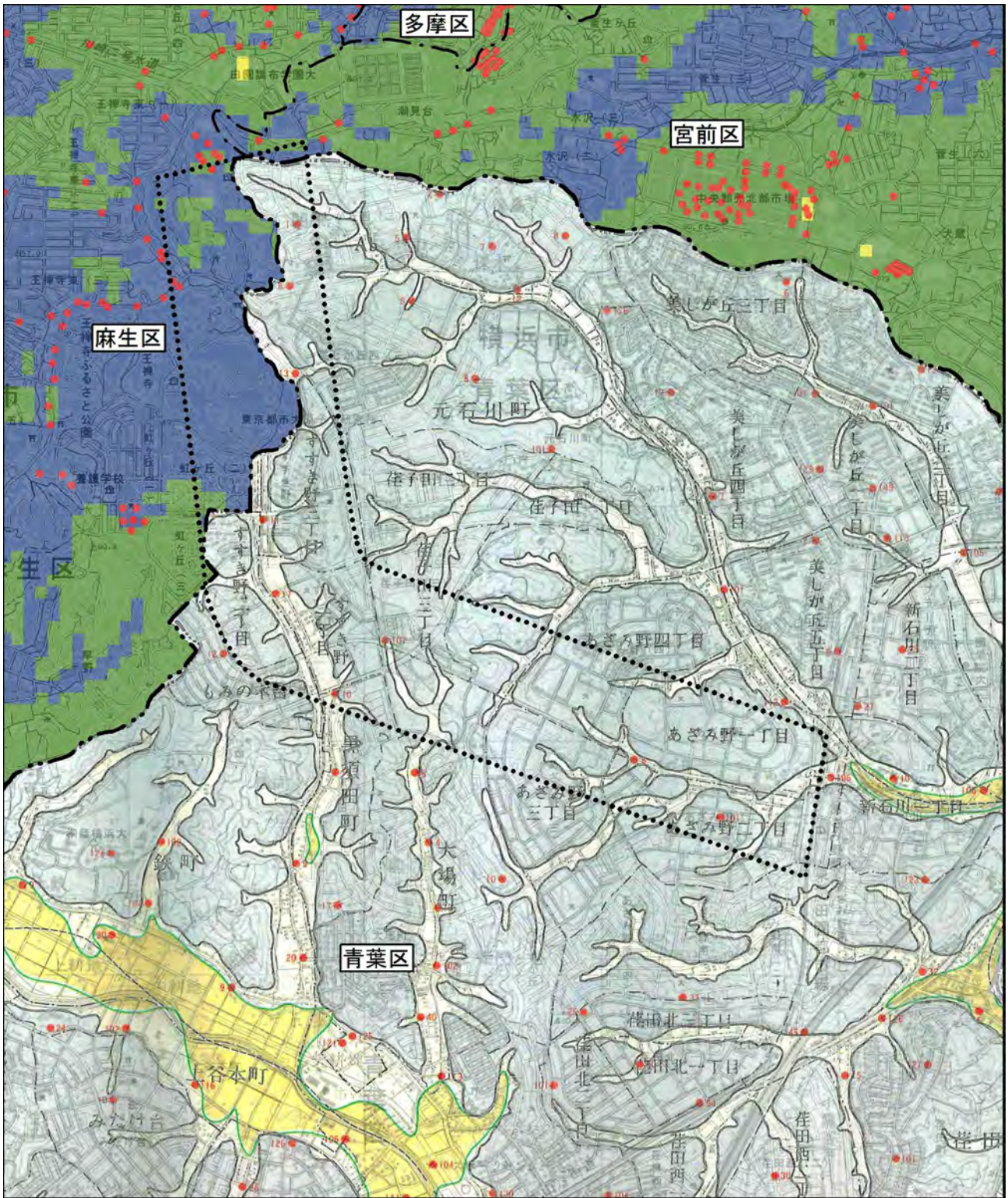


図2-5 土壌図

資料:「土地分類基本調査図(5万分の1土壌図)横浜・東京西南部・東京東南部・木更津」(神奈川県 平成3年3月)



凡例

<ul style="list-style-type: none"> ⋯⋯ 事業計画区域 --- 市境 - - - 区境 ● ボーリング地点 ■ 丘陵地及び台地面 	<p>横浜市 軟弱地盤層厚</p> <ul style="list-style-type: none"> 0~5m 5~10m 10~20m 20~30m 30~40m 40~50m 50~60m 	<p>川崎市</p> <ul style="list-style-type: none"> ゆれやすい 比較的ゆれやすい ゆれにくい
--	---	---

N

1:25,000

0 500 1,000 m

図2-6 軟弱地盤図

資料:「横浜市地盤図集」(横浜市 平成8年3月)
「ガイドマップかわさき 川崎市都市計画情報(かわさきハザードマップ・地盤情報)」
(川崎市 令和2年5月参照)

2.2.3 水循環の状況

1) 河川

調査区域における河川の状況は、図2-7に示すとおり、鶴見川水系の河川（鶴見川、早渕川、布川、黒須田川、大場川、早野川）及び多摩川水系（平瀬川）が存在します。

事業計画区域は鶴見川水系に位置し、主要な河川の状況は表 2-2に示すとおりです。また、事業計画区域は鶴見川、早渕川に挟まれており、黒須田川は事業計画区域内を流下し、鶴見川に合流しています。

主要な河川の流量は表2-3に示すとおりで、平成29年度の年平均値は、鶴見川が2.16m³/s、早渕川が 1.28m³/s、布川が 0.029m³/s、黒須田川が 0.097m³/s、大場川が 0.091m³/sとなっています。なお、早野川では測定が行われていません。

表 2-2 主要な河川の状況

河川区分	水系名	河川名	河川延長 (m) 注1)	流域面積 (km ²) 注1)
一級河川	鶴見川	1 鶴見川	31,970	184.4
		2 早渕川注2)	9,770	27.8
準用河川		3 布川	780	2.45
4 黒須田川		2,820	3.41	
その他の河川		5 大場川注3)	-	-
		6 早野川注3)	-	-

注1) 河川延長及び流域面積は県内の値です。

2) 早渕川は準用河川部を含む。

3) 大場川及び早野川は測定が行われていません。

資料：「令和元年度 土地統計資料集」

(神奈川県政策局政策部土地水資源対策課 令和2年3月)

表2-3 主要な河川の流量（平成29年度）

河川区分	水系名	No	河川名	測定地点	流量 (m ³ /s)
一級河川	鶴見川	①	鶴見川注1)	千代橋	2.16
		②	早渕川注1)注2)	峰大橋	1.28
準用河川		③	布川	荏田管理橋	0.029
④		黒須田川	耕地橋	0.097	
その他の河川		⑤	大場川	竹の下橋	0.091
		⑥	早野川注3)	-	-

注1) 鶴見川及び早渕川の測定地点は、図2-7(1)図郭外となります。

2) 早渕川は準用河川部を含む。

3) 早野川は測定が行われていません。

(測定地点：千代橋（横浜市緑区内）、峰大橋（横浜市港北区内）)

資料：「平成 29 年度 横浜市公共用水域及び地下水の水質測定結果報告書」

(横浜市環境創造局環境保全部環境管理課監視センター 平成31年4月)

2) 湧水

調査区域における湧水の状況は、図2-8に示すとおりです。

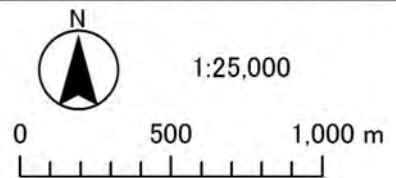
横浜市青葉区内では元石川町、あざみ野南、荏田北、大場町、鉄町付近、川崎市麻生区では虹ヶ丘や王禅寺付近、宮前区では犬蔵付近において湧水地点が確認されています。

事業計画区域には、市境に沿って湧水地点が分布しています。



凡例

- ⋯⋯ 事業計画区域
- ⋯⋯ 市境
- ⋯⋯ 区境
- 一級河川
- 準用河川
- その他河川
- 河川の流量測定地点



資料:「国土数値情報ダウンロードサービス 河川」
 (国土交通省国土政策局国土情報課 平成24年3月)
 「地理院タイル(淡色地図 スームレベル12~18)」(国土地理院 令和2年5月参照)
 「横浜市河川の概要」
 (横浜市道路局河川部河川企画課ホームページ 令和2年5月参照)
 「平成29年度横浜市公共用水域及び地下水の水質測定結果報告書」
 (横浜市環境創造局環境保全全部環境管理課監視センター 平成31年4月)

図2-7(1) 河川の状況

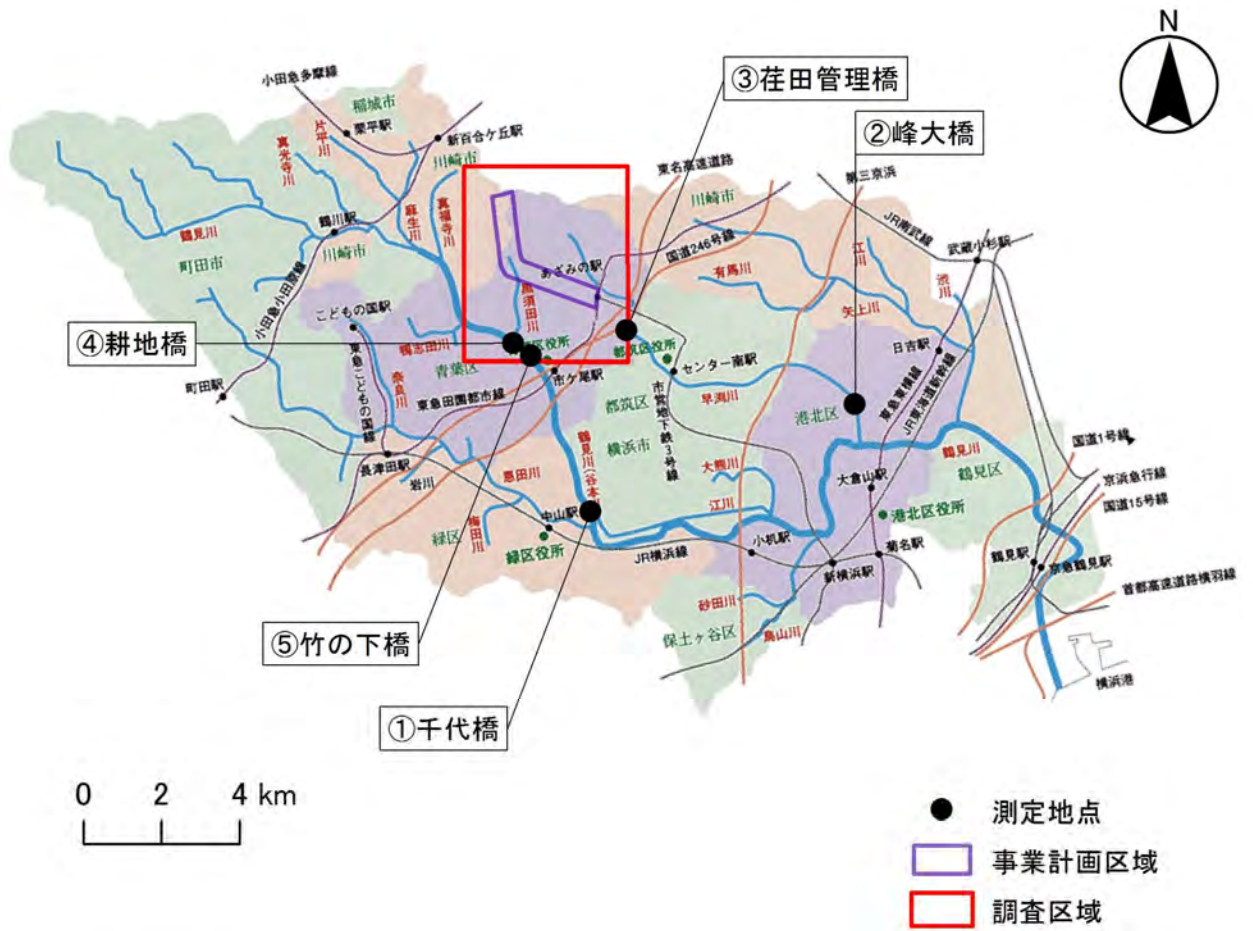
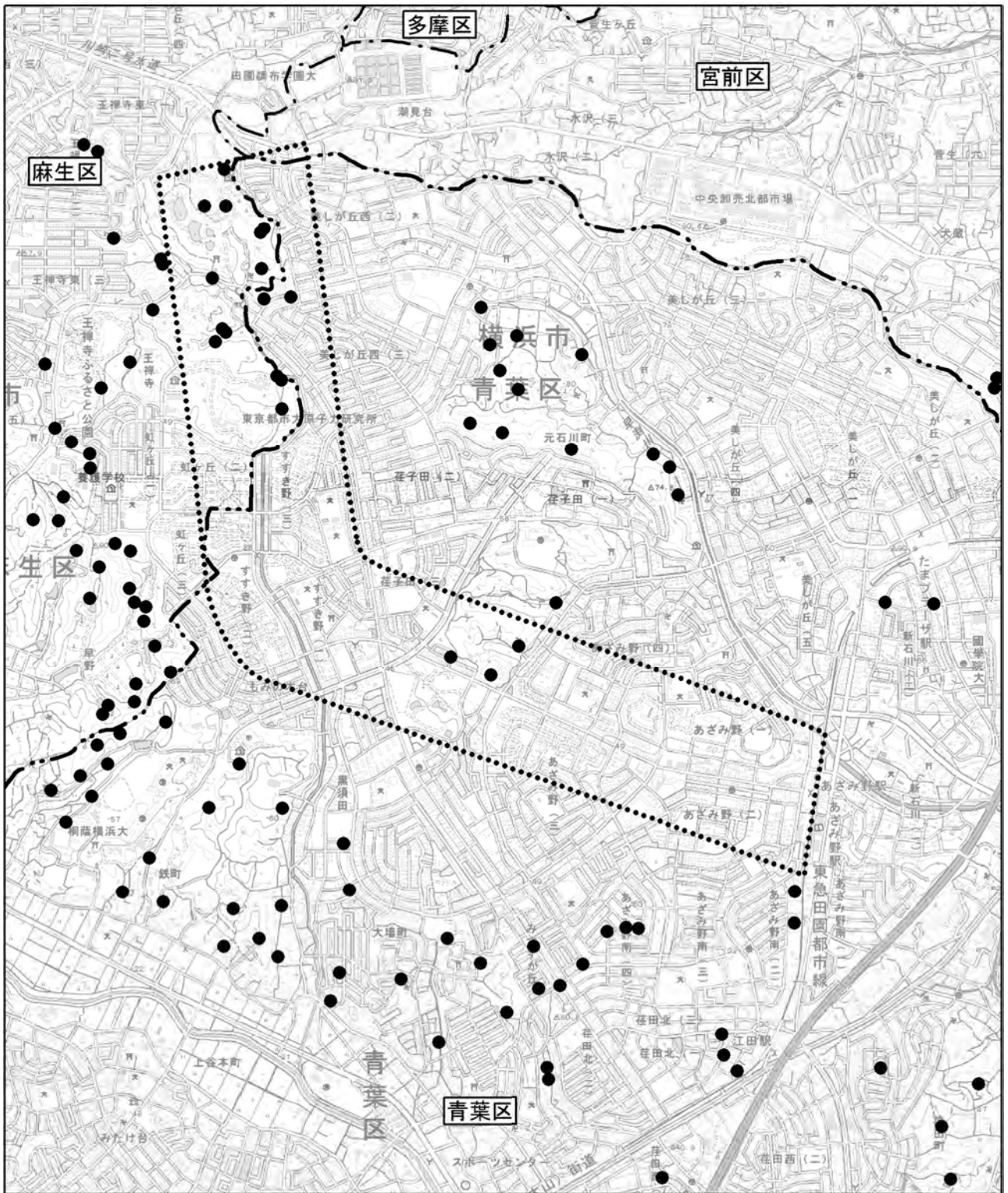


図2-7(2) 河川の状況

資料：「鶴見川水系全図」（横浜市道路局河川部河川事業課ホームページ 令和2年5月参照）
 ：「平成29年度 横浜市公共用水域及び地下水の水質測定結果報告書」
 （横浜市環境創造局環境保全部環境管理課監視センター 平成31年4月）



凡例

- 事業計画区域
- 市境
- 区境
- 湧水地点



1:25,000

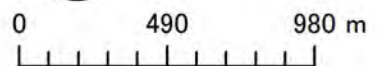


図2-8 湧水の状況

資料:「横浜環境マップ—自然編3— ~緑区・青葉区・都筑区版~」
 (横浜市環境保全局 平成14年3月)
 「平成25年度 水質年報」(川崎市 平成27年3月)

2.2.4 植物、動物の状況

1) 植物

調査区域における現存植生図は図2-9に、潜在自然植生図は図2-10に示すとおりです。

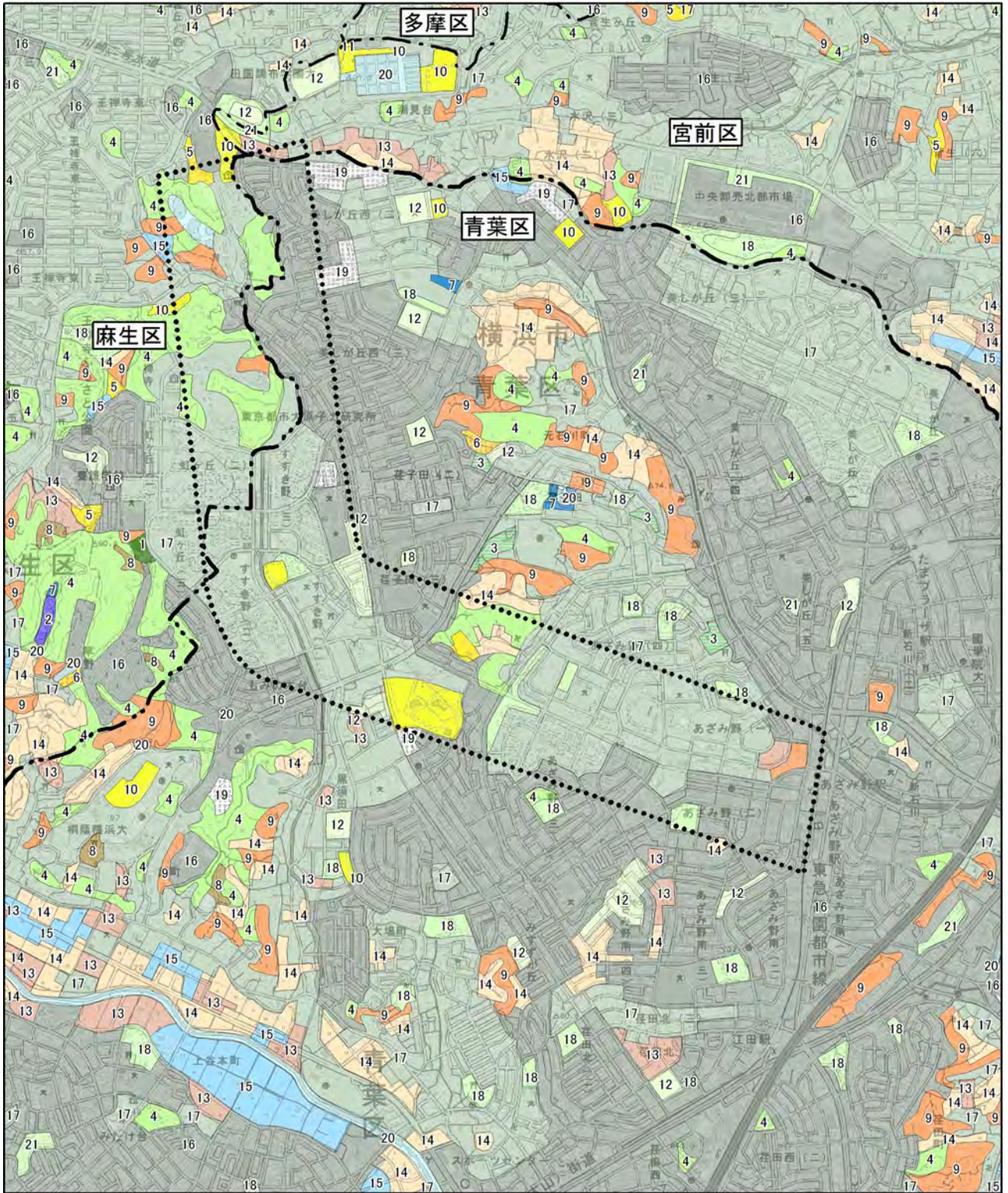
事業計画区域周辺の現存植生については、調査区域は開発が進んだ地域であるため、その大部分が市街地及び緑の多い住宅地となっており、そのほか、果樹園、畑雑草群落、水田雑草群落、ゴルフ場・芝地等の人工的な植生となっていますが、一部に「クヌギ・コナラ群集」及び「竹林」が分布しています。

なお、調査区域には「神奈川県レッドデータ生物調査報告2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館、平成18年7月）に記載された「シラカシ群落」が事業計画区域西側に存在しています。

潜在自然植生として、調査区域には「シラカシ群集・ケヤキ亜群集」、「シラカシ群集・典型亜群集」、「ハンノキ群落」が広がっています。

また、調査区域における名木古木の状況は、表2-4及び図2-11に示すとおりです。

横浜市の名木古木保存事業により指定された名木古木及びかながわの名木100選により選定された名木古木が12本存在しています。この中には、事業計画区域の近隣に位置する「カサノキ」が含まれますが、環境省が実施している「巨樹・巨木林調査」に報告されている巨樹・巨木林はありません。




凡例

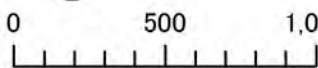
..... 事業計画区域 - - - 市境 - - - 区境

1 シラカシ群落	12 路傍・空地雑草群落
2 ハンノキ群落(VI)	13 果樹園
3 シラカシ屋敷林	14 畑雑草群落
4 クヌギ・コナラ群集	15 水田雑草群落
5 アズマネザサーススキ群集	16 市街地
6 チガヤーススキ群落	17 緑の多い住宅地
7 ヨシクラス	18 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
8 スギ・ヒノキ・サワラ植林	19 造成地
9 竹林	20 開放水域
10 ゴルフ場・芝地	21 残存・植栽樹群地
11 牧草地	

N



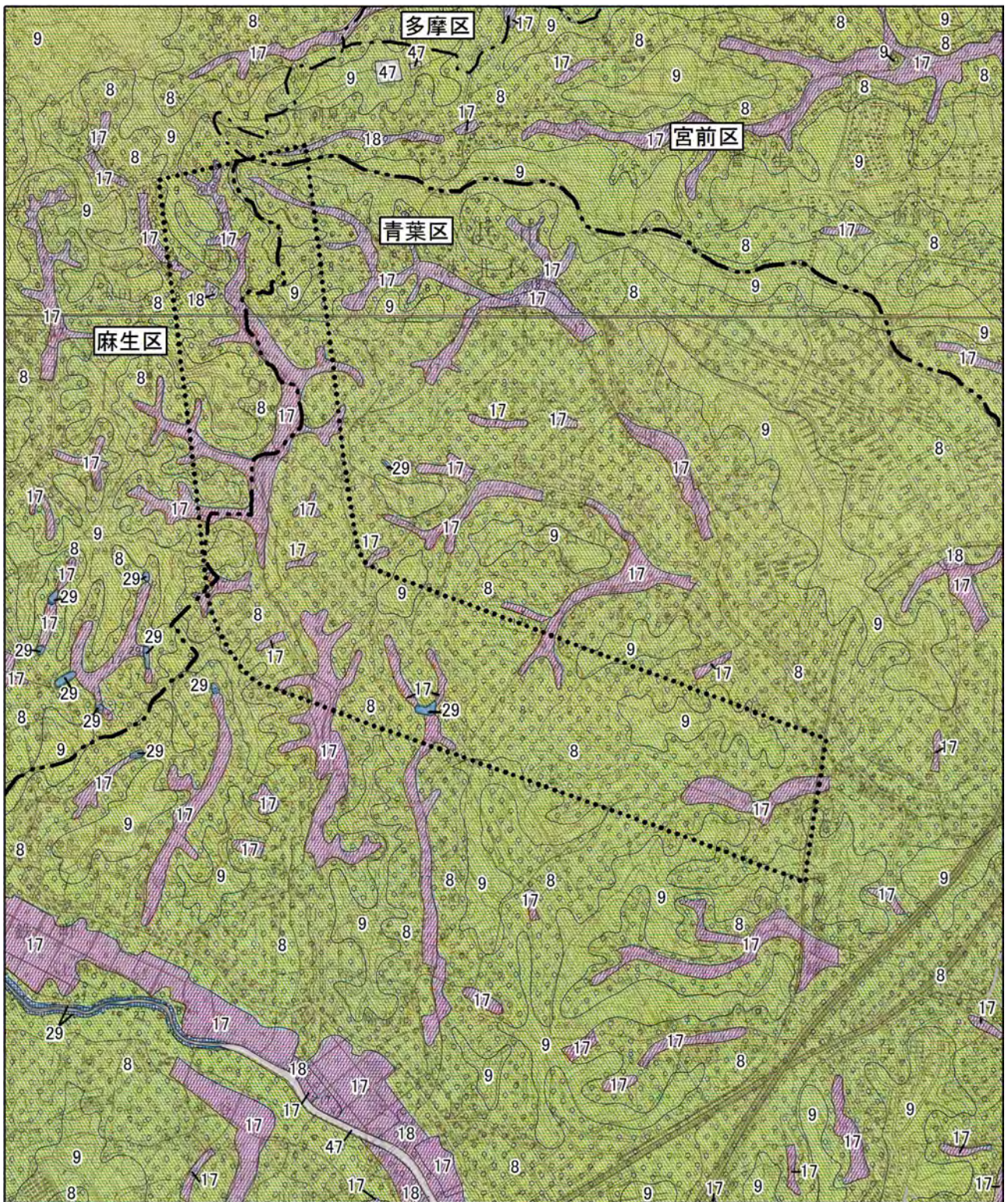
1:25,000



0 500 1,000 m

図2-9 現存植生図

資料:「自然環境調査Web-GIS 第6-7回自然環境保全基礎調査植生調査(荏田・溝口)」
(環境省自然環境局生物多様性センター 平成23年7月)



凡例

- ⋯⋯⋯ 事業計画区域
- 市境
- 区境

- 8 シラカシ群集・ケヤキ亜群集
- 9 シラカシ群集・典型亜群集
- 17 ハンノキ群落
- 18 クヌギ・ハンノキ群落
- 29 ウキクサクラ及びヒルムシロクラス
(開放水域植物群落)
- 47 開放水域



1:25,000

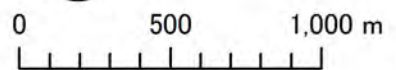


図2-10 潜在自然植生図

資料:「神奈川県潜在自然植生図(荏田・溝口)」(神奈川県教育委員会 昭和48年)

表2-4 名木古木一覧表

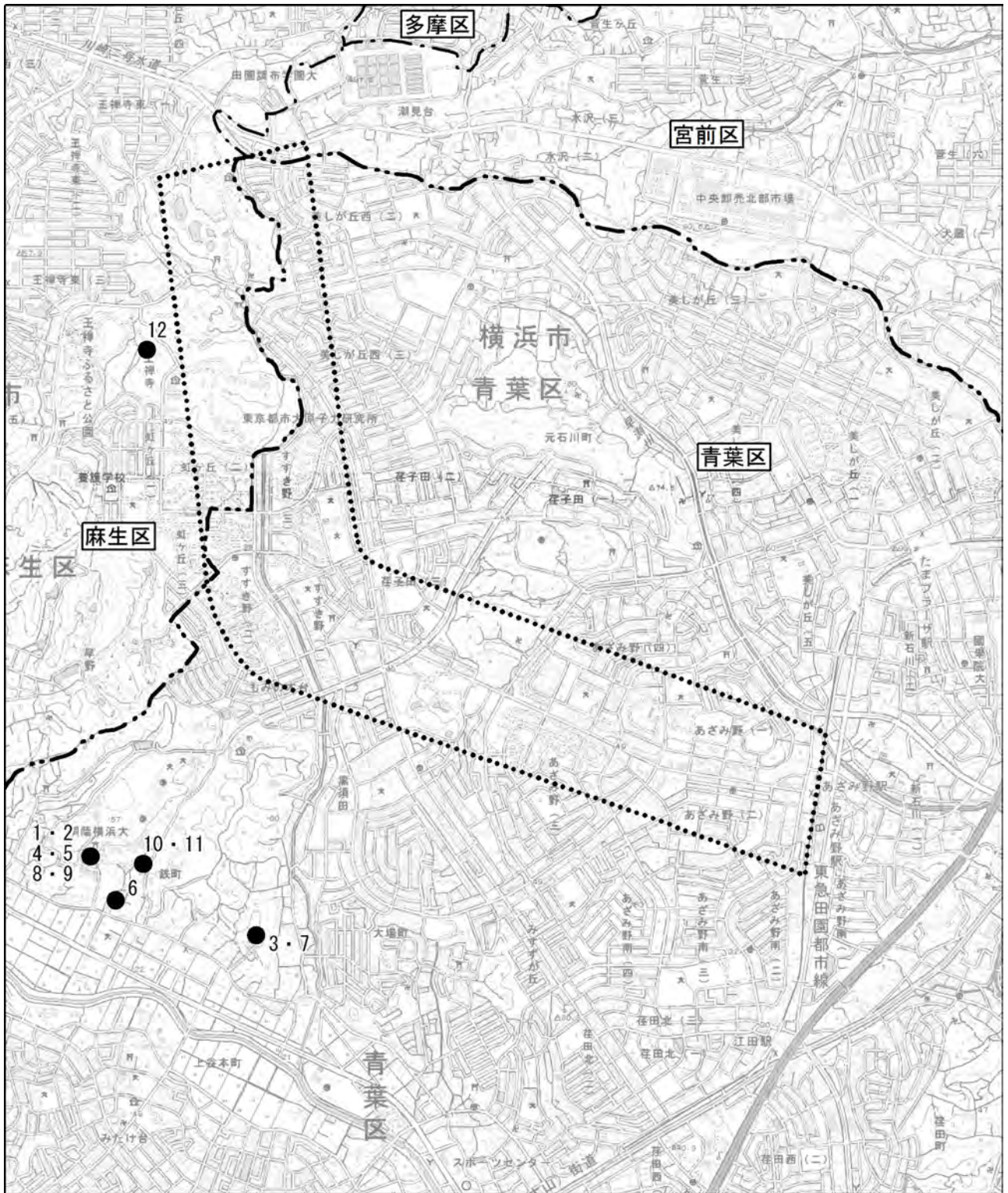
行政区分		No.	所在地	樹種	樹齡 (年)	樹高 (m)	目通周 (m)
横浜市	青葉区	1	鉄町 1553	アカガシ	530	16.3	4.1
		2	鉄町 1553	アカガシ	530	15.9	2.9
		3	鉄町 1123	ヤマザクラ	320	13	5.1
		4	鉄町 1553	モミ	190	18	1.9
		5	鉄町 1553	モミ	190	18	1.9
		6	鉄町 1509	ケヤキ	210	18	2.1
		7	鉄町 1123	ハリギリ	210	16	2.7
		8	鉄町 1553	クスノキ	100	19	4.2
		9	鉄町 1553	サワラ	510	15	2.8
		10	鉄町 1506	ヤマザクラ	160	15	2.9
		11	鉄町 1506	ヤマザクラ	160	15	2.2
川崎市	麻生区	12	王禅寺 940	カサノキ	450	7.1	2.1

資料：「名木古木指定樹木一覧」

：（横浜市環境創造局みどりアップ推進部みどりアップ推進課 平成31年3月）

：「かながわの名木100選 樹木所在地一覧表」

：（日本樹木医会神奈川支部 平成19年12月）



凡例

- ⋯⋯ 事業計画区域
- 市境
- 区境
- 名木古木



1:25,000

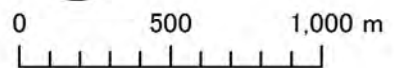


図2-11 名木古木の状況

資料:「名木古木指定樹木一覧」
 (横浜市環境創造局みどりアップ推進部みどりアップ推進課 平成31年3月)
 「かながわの名木100選 樹木所在地一覧表」
 (日本樹木医学会神奈川支部 平成19年12月)

2) 動物

調査区域には「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館、平成18年7月）に記載された、神奈川県における絶滅のおそれのある地域個体群は存在しません。

事業計画区域周辺には一部樹林地等が存在しますが、大部分は開発が進んだ市街地であり、現存する緑は人工的に植栽されたものと考えられ、事業計画区域周辺に生息する動物は、市街地に適応した種が中心であると想定されます。

なお、「かながわの鳥と獣 神奈川県鳥獣生息分布調査報告書」（神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課、平成4年3月）及び「横浜の川と海の生物（第14報・河川編）」（横浜市環境科学研究所、平成28年3月）において報告されている調査区域の動物相の確認状況は表2-5に示すとおりです。哺乳類はタヌキ及びイタチが、鳥類はカルガモ、サンコウチョウ等が、魚類はオイカワ、ドジョウ等が、底生生物はアメリカツノウズムシ、ハグロトンボ等が確認されています。

これらの動物相について、表2-6に示す資料より選定を行いました。選定基準との比較を行った結果、調査区域で確認されている主な注目すべき種は、表2-7に示すとおりで、イタチの哺乳類1種類、コチドリやサンコウチョウ等の鳥類10種類、ドジョウやスミウキゴリ等の魚類4種類、ハグロトンボといった底生生物が確認されています。

表2-5 調査区域で確認されている主な動物相の一覧

調査項目	主な確認種	
	資料①	資料②
哺乳類	タヌキ、イタチ	—
鳥類	カルガモ、コガモ、コシユケイ、キジ、コチドリ、キジバト、カワセミ、コゲラ、コシアカツバメ、キセキレイ、セウロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、シヨウビタキ、アカハラ、シロハラ、ツクミ、ウグイス、センタムシクイ、サンコウチョウ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カララヒリ、シメ、スズメ、ムクドリ、カケス、オナガ、ハシホソガラ、ハシブトガラ	—
魚類	—	コイ、オイカワ、トシヨウ、ミナメダカ、スミウキゴリ、ウキゴリ、カワヨシホリ、クダハゼ、ヌマチチブ
底生生物	—	アメリカツノウズムシ、タイワンシジミ、ヒメミズシ科、ミズミズシ亜科、イトミズシ科、シマイシビル、ヒロウトイシビル、ミズムシ、フロリダマシヨコエビ、ミゾレヌマエビ、カリヌマエビ属、シエビ、アメリカザリガニ、モズクガニ、フタモンコカゲロウ、シロハラコカゲロウ、ウデマカリコカゲロウ、ハグロトンボ、コガタシマトビケラ、ナミコガタシマトビケラ、ウルマシマトビケラ、クダトビケラ属、ウスバガガンボ属、Yamatotipula亜属、ヤマトヒメスリカ属、ケブカエリスリカ属、ツヤスリカ属、エリスリカ属、ニセカレツヤスリカ属、ニセハネツヤスリカ属、ナガレツヤスリカ属、トクナガエリスリカ属、ユスリカ属、カマガタスリカ属、ツヤムネスリカ属、ハモンユスリカ属、ナガレユスリカ属、ヒゲユスリカ属

資料①：「かながわの鳥と獣 神奈川県鳥獣生息分布調査報告書」

(神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課 平成4年3月)

資料②：「横浜の川と海の生物（第14報・河川編）」（横浜市環境科学研究所 平成28年3月）

表 2-6 注目すべき種の選定基準（動物）

文献及び法律名		選定基準となる区分	記号
1	「文化財保護法」（昭和25年、法律第214号）	特別天然記念物	国特天
		天然記念物	国天
2	「神奈川県文化財保護条例」（昭和30年、神奈川県条例第13号）	県指定天然記念物	県天
3	「横浜市文化財保護条例」（昭和62年、横浜市条例第53号）	市指定天然記念物	市天
4	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年、法律第75号）	国際希少野生動植物種	国際
		国内希少野生動植物種	国内
		緊急指定種	緊急
5	「環境省レッドリスト2020 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（令和2年、環境省）	絶滅	EX
		野生絶滅	EW
		絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN
		絶滅危惧ⅠA類	CR
		絶滅危惧ⅠB類	EN
		絶滅危惧Ⅱ類	VU
		準絶滅危惧	NT
		情報不足	DD
6	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館）	絶滅	EX
		野生絶滅	EW
		絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN
		絶滅危惧ⅠA類	CR
		絶滅危惧ⅠB類	EN
		絶滅危惧Ⅱ類	VU
		準絶滅危惧	NT
		減少種	減少
		希少種	希少
		要注意種	要注
		注目種	注目
		情報不足	DD
		不明種	不明

表 2-7 調査区域で確認されている主な注目すべき種

項目	目名	科名	種名	選定基準及びランク						
				1	2	3	4	5	6	
哺乳類	ネコ目	イタチ科	イタチ	-	-	-	-	-	NT	
鳥類	チドリ目	チドリ科	コチドリ	-	-	-	-	-	注目	
	スズメ目	カササギヒタキ科	サンコウチョウ	-	-	-	-	-	VU	
		モズ科	モズ	-	-	-	-	-	減少	
		ツバメ科	コシアカツバメ	-	-	-	-	-	減少	
		ムシクイ科	センダイムシクイ	-	-	-	-	-	NT	
		ヒタキ科	アカハラ	-	-	-	-	-	減少	
		セキレイ科	キセキレイ	-	-	-	-	-	-	減少
			セグロセキレイ	-	-	-	-	-	-	減少
		アトリ科	カワラヒワ	-	-	-	-	-	減少	
ホオジロ科	アオジ	-	-	-	-	-	VU			
魚類	コイ目	コイ科	コイ	-	-	-	-	-	DD	
		ドジョウ科	ドジョウ	-	-	-	-	-	NT	
	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	-	-	-	-	-	VU	
	スズキ目	ハゼ科	スミウキゴリ	-	-	-	-	-	NT	
底生生物	トンボ目	カワトンボ科	ハグロトンボ	-	-	-	-	-	要注	

注) 「選定基準及びランク」1～6は、表 2-6参照。

3) 農地

調査対象地域における自然的土地利用面積は、表2-8に示すとおりです。

事業計画区域が位置する横浜市青葉区では、326haの農地が存在しており、川崎市麻生区には230ha、宮前区には145ha、多摩区には105ha存在します。

また、調査区域における自然的土地利用状況は、図2-12に示すとおりです。

事業計画区域周辺には一部農地や山林が存在します。

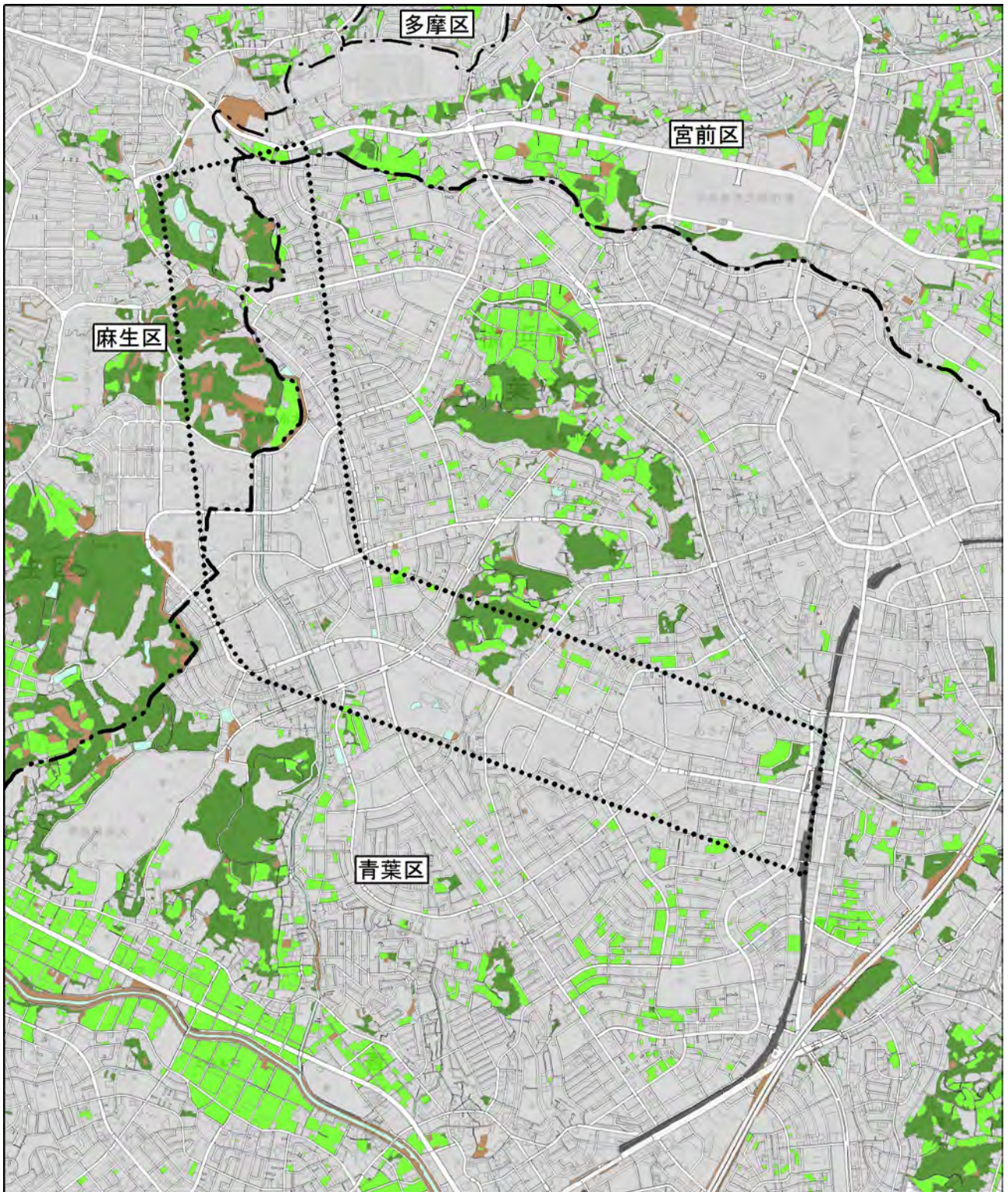
表2-8 自然的土地利用面積

項目	面積 (ha)			
	横浜市	川崎市		
	青葉区	麻生区	宮前区	多摩区
農地	326	230	145	105
山林	230	286	84	141
河川・水路・水面	32	19	8	55
荒地・海浜・法面等	59	62	41	85

資料：「横浜市土地利用のあらまし 平成26・27年度」（横浜市建築局企画部都市計画課 平成30年4月）

：「川崎市の土地利用現況 平成27年度調査結果」

（川崎市まちづくり局計画部都市計画課 平成30年3月）



凡例 事業計画区域 - - - 市境 - - - 区境		■ 農地 ■ 山林 ■ 河川、水路、水面 ■ 荒地、海浜、法面等 ■ 道路用地 ■ 鉄道用地 ■ その他	N 1:25,000 0 500 1,000 m
資料:「横浜市土地利用のあらまし 平成26年・27年度」 (横浜市建築局企画部都市計画課 平成30年4月) 「平成27年度 川崎市都市計画基礎調査 土地利用計画図(麻生区・宮前区・多摩区)」 (川崎市まちづくり局 平成30年3月)		図2-12 自然的土地利用状況	

2.2.5 人口、産業の状況

1) 人口

調査対象地域における人口等の状況は、表2-9及び表2-10に示すとおりです。

令和元年の横浜市の世帯数は約170万世帯、人口は約375万人、一世帯当りの人口は2.2人、人口密度は8,609人/km²となっています。

また、横浜市青葉区の世帯数は約13万世帯、人口は約31万人、一世帯当りの人口は2.4人、人口密度は8,846人/km²となっています。

平成27年から令和元年の人口等の推移を見ると、横浜市では、世帯数、人口ともに増加傾向にあり、横浜市青葉区においては、世帯数は増加傾向にありますが、人口は平成27年から28年にかけて増加、平成29年から平成30年にかけて減少し、令和元年に増加しています。

令和元年の川崎市の世帯数は約74万世帯、人口は約153万人、人口密度は10,602人/km²となっています。

平成27年から令和元年の人口等の推移を見ると、川崎市では、世帯数、人口ともに増加傾向にあります。また川崎市麻生区、宮前区、多摩区においては、3区とも世帯数、人口ともに増加傾向となっています。

表2-9 人口等の現況（令和元年）

行政区分	面積 (km ²)	世帯数 (戸)	人口 (人)	1世帯当り 人員(人)	人口密度 (人/km ²)
横浜市	435.43	1,710,900	3,748,781	2.2	8,609
青葉区	35.06	129,325	310,156	2.4	8,846
川崎市	144.35	740,516	1,530,457	(2.1) ^{注)}	10,602
麻生区	23.11	78,602	179,879	(2.3) ^{注)}	7,784
宮前区	18.60	100,712	232,325	(2.3) ^{注)}	12,491
多摩区	20.39	113,279	219,868	(1.9) ^{注)}	10,783

資料：「横浜市統計書〔web版〕」（横浜市政策局総務部統計情報課ホームページ 令和2年5月参照）

：「川崎市統計書 令和元年（2019年）版」（川崎市総務企画局情報管理部統計情報課ホームページ 令和2年5月参照）

注）川崎市統計書には1世帯当り人員（人）の記載はないため、参考値として求めた。（人口/世帯数）

表2-10 人口等の推移

行政区分		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
横浜市	世帯数 (戸)	1,645,618	1,660,256	1,673,662	1,690,932	1,710,900
	人口 (人)	3,724,844	3,731,293	3,733,234	3,740,172	3,748,781
青葉区	世帯数 (戸)	125,344	126,337	127,050	128,098	129,325
	人口 (人)	309,692	310,339	310,010	309,626	310,156
川崎市	世帯数 (戸)	691,837	703,945	716,470	727,578	740,516
	人口 (人)	1,475,213	1,489,477	1,503,690	1,516,483	1,530,457
麻生区	世帯数 (戸)	74,151	75,131	75,999	77,294	78,602
	人口 (人)	175,523	176,471	177,238	178,748	179,879
宮前区	世帯数 (戸)	94,808	96,226	97,839	99,301	100,712
	人口 (人)	225,594	227,375	229,481	231,131	232,325
多摩区	世帯数 (戸)	106,472	108,176	109,639	111,280	113,279
	人口 (人)	214,158	215,644	216,681	217,941	219,868

資料：「横浜市統計書〔web版〕」（横浜市政策局総務部統計情報課ホームページ 令和2年5月参照）
 ：「川崎市統計書 令和元年（2019年）版」（川崎市総務企画局情報管理部統計情報課ホームページ 令和2年5月参照）

2) 産業

調査対象地域における産業大分類別事業所数及び従業者数は、表2-11に示すとおりです。また、農業、工業、商業の概況は、表2-12～表2-14に示すとおりです。

横浜市では、事業所数、従業者数ともに最も多いのは「卸売業、小売業」となっており、横浜市青葉区においても同様となっています。

横浜市の農家の総数は3,451戸、横浜市青葉区では431戸であり、横浜市の工業の事業所数は2,331事業所、横浜市青葉区では48事業所となっています。また、横浜市の商業の事業所数は18,925事業所、横浜市青葉区では1,203事業所となっています。

川崎市では、事業所数、従業者数とも最も多いのは「卸売業、小売業」となっており、川崎市宮前区、多摩区においても同様となっています。川崎市麻生区では、事業所数が最も多いのは「卸売業、小売業」ですが、従業者数が最も多いのは「医療、福祉」となっています。

川崎市の農家の総数は1,025戸、川崎市麻生区が291戸、宮前区が230戸、多摩区では243戸となっています。

川崎市の工業の事業所数は1,135事業所、川崎市麻生区が64事業所、宮前区が98事業所、多摩区では72事業所となっています。また、川崎市の商業の事業所数は6,314事業所、川崎市麻生区が586事業所、宮前区が696事業所、多摩区では746事業所となっています。

表2-11 産業大分類別事業所数及び従業者数

分類		横浜市		川崎市			
			青葉区		宮前区	多摩区	麻生区
全産業（公務を除く）	事業所数	114,930	7,217	43,149	4,430	5,140	3,746
	従業者数	1,475,974	76,000	584,131	48,518	49,750	45,693
農業・林業	事業所数	163	19	74	14	17	11
	従業者数	1,403	125	782	155	94	97
漁業	事業所数	-	-	-	-	-	-
	従業者数	-	-	-	-	-	-
鉱業、採石業、 砂利採取業	事業所数	-	-	1	-	-	-
	従業者数	-	-	43	-	-	-
建設業	事業所数	10,713	528	4,708	517	504	294
	従業者数	89,498	3,828	31,488	3,313	2,915	1,899
製造業	事業所数	6,271	184	4,078	308	226	172
	従業者数	131,338	1,807	31,488	2,487	2,036	3,936
電気・ガス・熱供給・ 水道業	事業所数	49	1	47	7	5	3
	従業者数	3,234	2	1,849	114	224	58
情報通信業	事業所数	1,979	164	713	81	73	91
	従業者数	65,952	1,061	41,078	738	731	1,447
運輸業、郵便業	事業所数	3,212	50	1,345	115	69	47
	従業者数	90,846	1,422	37,047	2,724	1,835	1,262
卸売業、小売業	事業所数	26,784	1,714	9,114	972	1,063	793
	従業者数	294,029	18,140	97,891	10,948	9,368	8,257
金融業、保険業	事業所数	1,694	106	494	45	50	59
	従業者数	33,663	2,129	8,733	623	759	819
不動産業、物品賃貸業	事業所数	10,285	617	4,362	464	616	371
	従業者数	51,368	2,875	16,724	1,810	2,016	1,338
学術研究、専門・技術サービス業	事業所数	6,116	440	1,781	184	248	249
	従業者数	67,125	2,747	30,221	775	1,632	1,716
宿泊業、飲食サービス業	事業所数	14,426	865	6,058	473	719	395
	従業者数	147,486	9,885	54,427	4,859	6,521	4,487
生活関連サービス業、 娯楽業	事業所数	9,481	694	3,589	352	513	308
	従業者数	62,414	4,782	21,089	1,894	2,604	1,873
教育、学習支援業	事業所数	4,549	504	1,641	211	242	226
	従業者数	61,771	6,497	31,127	4,406	6,174	4,845
医療、福祉	事業所数	12,151	1,037	4,037	464	551	482
	従業者数	220,968	17,525	73,336	9,969	8,854	9,877
複合サービス事業	事業所数	379	27	149	19	17	15
	従業者数	5,097	830	4,328	547	199	541
サービス業（他に分類されないもの）	事業所数	6,678	267	193	193	217	215
	従業者数	149,782	2,345	2,350	2350	3,280	2,511

注) 横浜市は平成28年6月現在、川崎市は平成26年7月現在のもの。

資料: 「横浜市統計書 [web版]」 (横浜市政策局総務部統計情報課ホームページ 令和2年5月参照)

: 「川崎市統計書 令和元年(2019年)版」 (川崎市総務企画局情報管理部統計情報課ホームページ 令和2年5月参照)

表2-12 農業の概況

行政区分	農家数 (戸)			経営耕地面積 (a)
	総数	販売農家	自給的農家	総面積
横浜市 ^{注1)}	3,451	2,029	1,422	187,754
青葉区	431	196	235	18,371
川崎市 ^{注2)}	1,025	-	-	31,110
麻生区	291	-	-	10,016
宮前区	230	-	-	8,646
多摩区	243	-	-	5,740

注1) 平成27年2月現在

2) 平成29年9月現在

資料：「横浜市統計書〔web版〕」（横浜市政策局総務部統計情報課ホームページ 令和2年5月参照）

：「川崎市農業実態調査」

（川崎市経済労働局都市農業振興センター農業振興課ホームページ 令和2年5月参照）

表2-13 工業の概況

行政区分	事業所数 ^{注1)} (事業所)	従業者数 ^{注1)} (人)	製造品出荷額 ^{注2)}	付加価値額 ^{注2)}
横浜市	2,331	90,938	399,752,163万円	96,368,104万円
青葉区	48	1,186	2,089,243万円	889,590万円
川崎市	1,135	46,734	4,092,916百万円	1,162,085百万円
麻生区	64	2,604	44,874百万円	20,708百万円
宮前区	98	1,362	21,438百万円	8,707百万円
多摩区	72	1,665	25,882百万円	12,678百万円

注1) 平成30年6月現在

2) 平成29年1年間の額

資料：「横浜市統計書〔web版〕」（横浜市政策局総務部統計情報課ホームページ 令和2年5月参照）

：「工業統計調査結果」（川崎市総務企画局情報管理部統計情報課ホームページ 令和2年5月参照）

表2-14 商業の概況

行政区分	事業所数 ^{注1)} (事業所)	従業者数 ^{注1)} (人)	年間商品販売額 ^{注2)} (万円)	売場面積 ^{注1)} (㎡)
横浜市	18,925	203,816	857,963,002	2,585,562
青葉区	1,203	12,880	34,682,277	213,237
川崎市	6,314	63,837	2,162,185	814,524
麻生区	586	6,587	120,712	83,653
宮前区	696	8,354	300,603	93,376
多摩区	746	6,683	131,450	74,631

注1) 平成26年7月現在

2) 平成25年1年間の額

資料：「横浜市統計書〔web版〕」（横浜市政策局総務部統計情報課ホームページ 令和2年5月参照）

：「商業統計調査結果」（川崎市総務企画局情報管理部統計情報課ホームページ 令和2年5月参照）